

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	坂出市立林田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	1	1	2	2	2	12	18
児童数	53	58	38	36	57	55	3	300	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に問題解決を図り，確かな学力を身につける子供の育成
～できる・わかる喜びを味わえる学習の展開～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

2年～6年 算数 3年～6年 国語
学校として当該教科に関する研究実績があるため

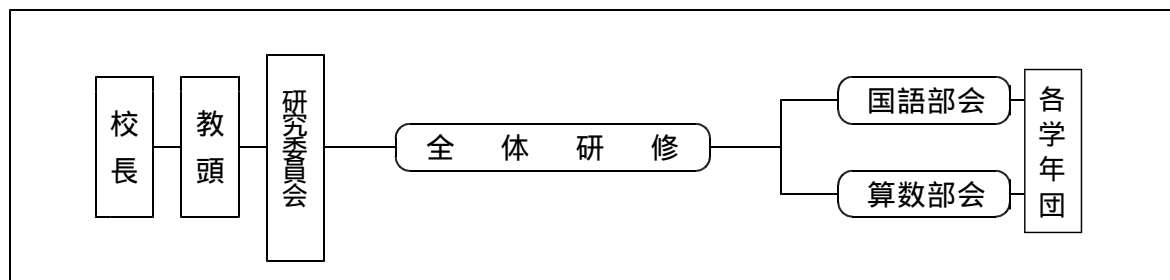
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 個に応じたきめ細かな指導を行うための少人数指導 仮説 個に応じたきめ細かな指導のために少人数指導を工夫することで，できる・分かる喜びを味わうとともに，「確かな学力」が身につくであろう。</p> <p>研究の内容 「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」を総合的に高める中で，学ぶ楽しさを味わわせ，「確かな学力」の向上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画，評価規準を作成し確かな学力を明確にする。 ・ 国語科と算数科において少人数指導を取り入れ，一人一人の実態に応じたきめ細かな指導方法の改善を図る。 ・ 個に応じた学習の展開のために，評価規準をもとに発展的な学習，補充的な学習の開発に努める。 <p>以上の3点を研究の内容として，研究と実践に取り組む。また，子供の反応や教師の反省をもとに，日常的な実践を図る。</p> <p>研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語部会と算数部会の2部会に分かれ，授業研究と教材研究，理論研究の3つの内容の研究に取り組む。 ・ 教材研究と理論研究を授業研究や毎日の授業実践に生かし，子供の反応や教師の反省をもとに，日常の授業に生かすための研究を行う。 ・ 評価規準については，授業実践を通して，適宜修正する。 ・ 第1・3木曜日を定例の研究日とする。第2・4木曜日は，授業の打ち合わせ，指導案の検討や授業研究の準備等，学年団の研修時間として確保する。
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 15 年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導のための，補充的な学習や発展的な学習，興味・関心に対応する学習の計画と実践</p> <p>仮説 補充的な学習，発展的な学習，興味・関心に対応する学習についての単元や指導方法を開発し，年間計画に組み込むことにより，日常的な実践の中で個に応じた指導が実現するであろう。</p> <p>研究の内容</p> <p><算数> 発展的な学習と補充的な学習の計画と実践 事前テスト，評価問題（項目）の作成 基礎的練習学習の在り方 ・ 計算ドリル学習や考え方を伸ばすドリル学習</p> <p><国語> 習熟度別学習指導の在り方 発展的な学習と補充的な学習の計画と実践 基礎的な練習学習の在り方 ・ 漢字ドリル学習や読みの力をつける練習学習 学校生活全体の中で言語活動への意欲を高める国語科学習 ・ 特別活動と関連づけた言語活動 図書館経営</p> <p>研究の方法 ・ 国語部会と算数部会の2部会に分かれ，授業研究と教材研究，理論研究の3つの内容の研究に取り組む。</p>
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 16 年度	<p>テーマ 学び方を身につける学習指導や支援の在り方 基礎的・基本的な内容の習熟を見極める評価の在り方</p> <p>仮説 習熟度や発達段階の系統性をふまえて学び方についての適切な支援を工夫すれば主体的に学ぶ意欲や態度が身につくであろう。また評価（特に形成的評価）の工夫をすることによって，一人一人の児童に基礎的・基本的な内容が確実に身につくであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p><算数> 習熟度別指導における各コースでの学び方と支援の在り方 発展的な学習と補充的な学習の計画と実践 事前テスト，評価問題（項目）の作成 基礎的練習学習の在り方 ・ 計算ドリル学習や考え方を伸ばすドリル学習</p> <p><国語> 豊かな言語の力や学び方の方法を身につける集団学習の在り方 発展的な学習と補充的な学習の計画と実践 基礎的な練習学習の在り方 ・ 漢字ドリル学習や読みの力をつける練習学習 学校生活全体の中で言語活動への意欲を高める国語科学習 ・ 特別活動と関連づけた言語活動</p> <p>研究の方法 ・ 学年部会を中心に教材開発を進めると共に，学力定着状況の分析，保護者を始め地域や他校への普及，研究実践資料の活用3つの内容の研究に取り組み，研究の日常的な実践化を図る。</p>
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制



昨年度の研究を土台として各学年，国語科，算数科それぞれ1単元ずつの単元開発を行ったので，教科部会を主体としながら，開発された単元によって学年団部会を組織した。
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 補充的発展的な教材の開発による，子ども一人一人の内容の定着と意欲・態度の向上
本年度は補充的発展的な学習を組み込んだ習熟度別学習の教材開発に取り組んだ。学習状況調査をふまえ，国語科では「読むこと」の領域について，特に要点や要旨をとらえたり段落相互の関係を理解したりする力を伸ばすことに重点をおいて開発した。算数科では，「知識・理解」「表現・処理」を確実に身につける学習をベースに「数学的な考え方」をより一層伸ばすことができるような，教材を工夫することにした。

開発単元は以下の通りである。

学年	単元名	
	国語科	算数科
3年	「知ってもらおう じぶんのこと」 「お祭り事てんを作ろう『つな引きのお祭り』」	「あまりのあるわり算」
4年	「だん落とだん落の関係を考えて『ヤドカリとイロギンチャク』」 「環境を守る工夫をしよう『ウミガメのはまを守る』」	「わり算(2)」 「分数」
5年	「いろいろな方法で調べよう『森林のおくりもの』」 「身近な生活について討論しよう『インスタント食品とわたしたちの生活』」	「面積」 「小数のかけ算とわり算」
6年	「ロボットもの知情報誌を作ろう『人間とロボット』」	「単位量あたり」 「分数のかけ算」

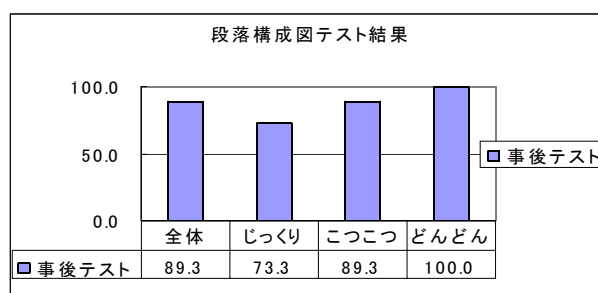
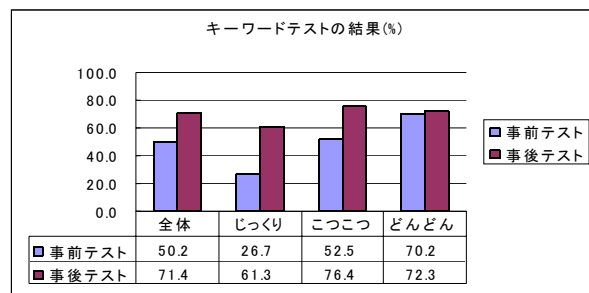
【国語科実践例より】

<第5学年 国語科「いろいろな方法で調べよう『森林のおくりもの』(習熟度別指導) 学級：2，教師：3 >

本単元では段落構成に目をつけて文章が大きく3つに分かれていることや，本論は2つに分かれていることを確実にとらえさせた。また，大事な言葉を見つけ，それをつなぎながら要点をまとめるという読みの方法の定着を目指した。

<キーワードを見つける事前・事後テストの達成率 % >

<段落構成図のテストの達成率 % >



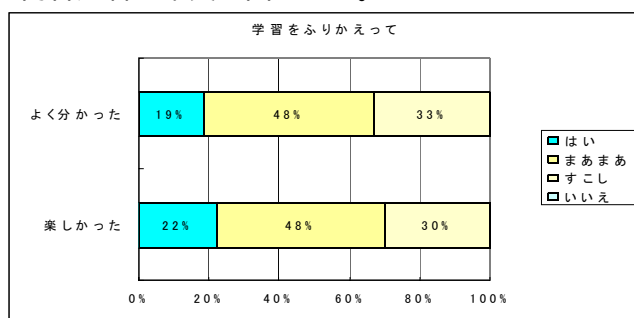
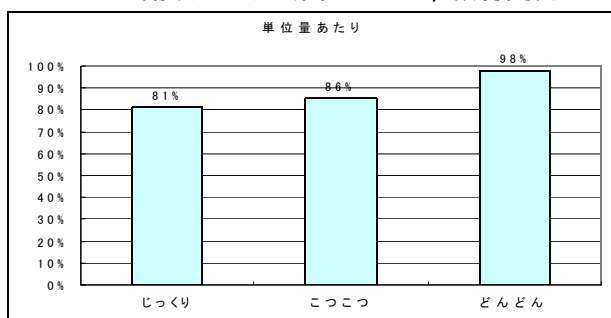
キーワードを見つける問題の達成率は上のテスト結果のとおりであった。これによると，事後キーワードテストの全体の平均は20ポイントあまり高くなった。段落構成図の問題(正しい図を選択させる)は，右のグラフのようにほぼ9割の児童が正解であった。これは習熟度別指導の成果だと言える。

【算数科実践例より】

<第6学年 算数科「単位量あたり」(習熟度別指導)学級2；教師3>

この単元で中心に取り上げられる「混みぐあい」は、関係する様々な量から取捨選択し、広さと人数というに異種の2量で決まること、さらに、「混みぐあい」は平均化されたものであるし、一様性を仮定したものであることを理解させた。そのためにも体験的な算数活動を取り入れるとともに、半具体物による操作的活動を取り入れ、混みぐあいを実感するとともに、意味理解を確実なものにしたいと考えた。

県版テストの数学的な考え方の達成率は、<どンドンコース>では98%、<こつこつコース>では85%、<じっくりコース>では81%という結果であった。習熟度別コースの違いは、あるものの8割以上の達成率であり、教材開発により内容定着が確実に図られた。



【児童の学ぶ姿から】

学級の人数が多いクラスでは、少人数にすることで落ち着いて学習できる雰囲気ができ、児童が意識を集中させて学習に臨むことができる。その結果、児童の発言の機会や活動の機会が増えたり、教師が児童の学習活動を冷静に観察できたり、一人一人に接する時間が確保できたりすることで、児童が意欲的に学習する姿が見られている。

習熟度別学習を行うことで、ほぼ同じ程度のレディネスをもった児童が、自分の力を発揮しつつ新しい課題に向かうため、納得しながらの学習が可能になっている。どのコースにおいても、児童の持っている力から出発できるため、受け身的な学習から能動的な学習になっており、学ぶ楽しさやできる喜びを感じ、「自信」の回復につながっている。

少人数指導は、低学年の場合、学習成果の効果は期待できても意欲面で担任教師以外の教師には不安感をもちやすいが、高学年の児童にとっては学習成果や学習意欲両面で効果が期待できた。

【教師にとって】

教師同士の共同の教材研究を行うことによって、いろいろなアイデアや指導方法が共有できた。また習熟度別指導の在り方を探る中で、指導の系統性を確認したり、児童のつまずきやそれに対する支援の在り方などを、より具体的に把握しようとするようになった。その結果一人一人の個性や能力を考えたきめ細かな指導ができています。また、学級や学年団の枠を越えた児童理解が深まり、教科以外の指導にも役立っている。

(2) 香川県学習状況調査より検討した学力定着の状況

国語科14年度調査では、本校児童は県全体児童の得点と比べて「話す・聞く」力がやや高く「読む」力がやや低い傾向が見られた。また15年度調査では、「書く力」はやや低く、「話す・聞く力」と「言語」に関する項目についての得点はやや高かった。14年度と15年度の比較では、全学年平均で「話す・聞く」が3%、「言語」が1%向上している。一方「意欲」に関する項目についての得点は点数上は伸びが見られていないが、個々の児童の学習後の感想や自己評価を見ると、国語はあまり好きではなかったけれど好きになったとか、課題や内容によって分かれる少人数授業が楽しく、興味深く取り組んでいると答える児童も多くなっており、日常的な学習態度からは、意欲的な学習態度が育ってきていることが実感できている。

算数科は、15年度調査で「意欲」1%、「知識・理解」1.1%、「数学的な考え方」1.7%、「表現・処理」3.9%と4観点とも県平均を上回った。特に5年生は14年度と比較して「数学的な考え方」が8%、「表現・処理」が6%向上した。これは、基礎的・基本的内容を定着させるためには既習内容の習熟が重要であると考え、その差に着目して習熟度別少人数授業を行った結果によるものと考えられる。児童の「学び方」や問題解決にいたる「考え方」に重点を置いて学習の過程を

大切に指導したことによって、じっくりコースやこつこつコースでは既習事項を生かして自力解決する力、どんどんコースでは既習事項を生かして課題を発見する力など、学ぶ力も育ってきている。

(3) 児童へのアンケート調査結果より検討した児童の意識

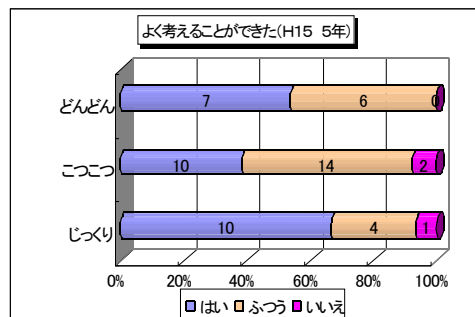
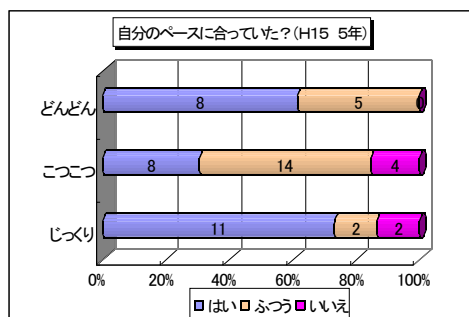
集団編成の仕方について

14年度と15年度を比較してみると、どちらの教科でも学級を3(2)つに分けてする学習、中でも、座席や番号で分ける等質集団よりは勉強の仕方や進め方によって分ける学習(習熟度別学習、課題別学習)集団による分け方がよいと考える児童の割合が増えている。これはコースごとに学習の仕方や指導の方法等を工夫し、それぞれに合った課題についての学習ができていることの満足度の表れととらえられる。また、学年差を見ると、学年が上がるにつれて習熟度別学習や課題別学習を選ぶ児童が増える傾向にある。

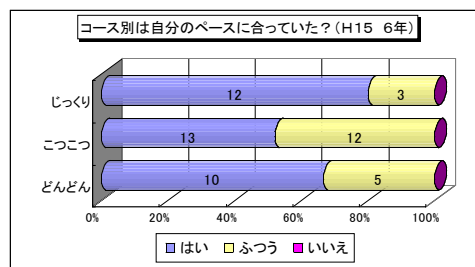
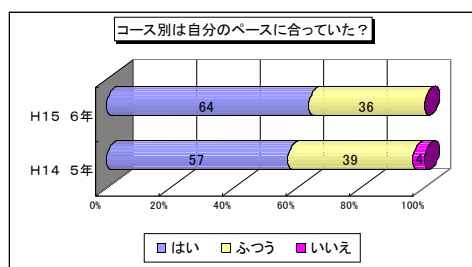
習熟度別指導について

国語科では本年度5年生の結果を見ると、昨年度の4年生時に比べて「自分のペースに合っていた」「よく考えることができた」と答える児童の割合が増えるなど、昨年度実施した少人数学習に比べて、児童の実態に即した満足度の高い学習を展開することができつつあるととらえられる。

この2つの観点について分析すると、以下のような結果になった。どんどんコース・じっくりコースの児童に満足度が高いことが伺える。特に、じっくりコースの児童には、これまでの指導の中で行きとどかなかった個別指導、スモールステップなどの支援が、児童の満足度を高めたものととらえられる。



算数科ではコースの学習が「自分のペースに合っていたか」については、「はい」と答えた児童は半数以上、「ふつう」と合わせると9割以上の児童が少人数学習に満足だと感じていたと思われる。



6年生について習熟度別学習を行った際のコース別に分けて分析すると、「自分のペースに合っていた」と答える割合は昨年度より増加している。コースごとに若干の違いはあるものの、半数以上の児童は自分のペースに合っていたという意識をもっている。このことから、本年度は昨年度の実践をふまえて習熟度に応じた指導の工夫がより適切になされたと言える。

(4) 保護者アンケート結果より検討した保護者の意識

少人数学習に関する意見として、文章で書かれている保護者の数は、一昨年・昨年に比べて減少してきている。しかし「学習に対して意欲的でない」とか、「学習内容がよく分からない」「テストの結果が悪くなった」と見ている保護者は少なくなっており、少人数学習のよさや効果は期待されている。

2 今後の課題

少人数指導は、低学年の場合、学習成果の効果は期待できても意欲面で担任教師以外の教師には不安感をもちやすいことが分かった。どの学年から少人数指導を行うかは、学校の実情や児童の実態に合わせて考えていく必要がある。

国語科と算数科で単元ごとにコース別学習が行われると、学級担任として児童の把握が難しくなってくる。コース分けの方法や保護者との懇談の方法などについての工夫が必要である。

保護者からの期待には大きいものがあると感じられるが、実際に行っている教育活動が、保護者に十分理解できるまでには至っていない。総括的なテストだけでは、補足的な学習や発展的な学習の成果を伝えるには十分ではない。児童の学習の足跡を具体的に知らせたり、学年団だよりで学習の様子を知らせたりして、より深い理解が得られるように努めたい。

学力等把握のための学校としての取組

香川県学習状況調査（年1回）
県版テスト（国語...学期4枚 算数...学期3枚程度）
計算と漢字に重点を置いた基礎テスト（年5回・・・5月，7月，10月，11月，2月）
学習への意欲や主体的に学習に取り組む態度を把握する内発的動機付けについての調査
（Harterテスト）（年1回）
児童と保護者への少人数指導へのアンケート調査（年1回）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

フロンティアティーチャー研修会で実践発表（H15.4.25 対象：県内フロンティアティーチャー）

学力向上フロンティア事業中讃地区別協議会（2回）

実践上の課題等の情報交換（H15.7.11 対象：地区別協議会委員21名）

実践交流（H16.2.27 対象：中讃管内小中学校）

中間発表会開催（H16.1.29 対象：坂出市内小中学校，中讃地区フロンティア校 46名）

・ 本校の取り組みについて提案発表及び授業公開（5年生国語科，4年生算数科についての少人数学習）

・ 研究紀要，資料CD-R作成配布

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動

・ 県教育委員会視察（H15，5，12）

・ 広島県福山市立柳井小学校視察（H15，6，10 4名）

・ 広島県吉田町立丹比西小学校視察（H15，7，24 5名），

・ 広島県三原市立須波小学校視察（H15，7，28 1名），

・ 市内少人数担当との情報交換

H P に学力向上フロンティアスクールにおける実践研究の概要を掲載

（<http://www.sakaide-hayashida-e.ed.jp/>）

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無